

# 視察報告

## 総務委員会

視察者8名

宮崎、富永、藤田、御厨、  
中村、重松、江頭、黒田

7月21日(木)

### 茨城県水戸市

#### ◎中核市への移行について

水戸市は、県都として、また、水戸都市圏発展のリーダーとして魅力ある都市づくりを次の段階に進めるため、市民が誇れる住みやすいまちづくり、特色を生かした自立したまちづくり、選ばれる魅力的なまちづくりの実現を目指し、平成27年3月から中核市への移行を進め、令和2年4月に中核市に移行した。中核市移行による民生行政、保健衛生行政などの幅広い分野で県からの移譲事務等の項目数は、2,600項目以上であり、このうちの保健所に係る項目数は、約1,600項目に及ぶ。事務の移譲により市民サービスの向上、行政機能の強化、職員の能力向上、都市のイメージアップ等の効果が見込まれ、市民サービスの向上の具体例として、特色ある施策の展開、健康危機への迅速な対応、窓口の一元化、事務処理の効率化が挙げられた。また、移行にあたっては、連絡会議を51回開催するなどスタート時点から県の協力体制があり、大きな力になったとのことだった。

財政面では、初期費用として保健所等整備費で約20・4億円、システム開発経費等で約0・3億円がかかったが、毎年度の行政運営経費は、正職員82人の増員等による職員人件費等の歳出が増加するものの普通交付税等により歳入が増加し、歳入歳出の均衡が



水戸市視察

図られると見込んでいる。今後の課題として、保健所の所長となる医師をはじめ、獣医師、薬剤師などの専門職の人材確保等が挙げられた。

7月22日(金)

### 東京都江東区

#### ◎スケートボードパーク整備事業について

江東区は、東京2020大会で正式種目となったスケートボード競技の競技場が区内に整備され、また、区出身の堀米選手が金メダルを獲得したことを契機に、区がスケートボードパークを整備し、子どもから大人まで誰もが安心して楽しめる環境を整備するとともに、スケートボードの健全な発展を支援することにした。

夢の島総合運動場内に約2,400㎡の敷地に初・中級者向けの施設を整備する。令和4年11月開業予定。

利用者のニーズに合致した魅力ある施設とするため、堀米選手の関係者をはじめ、競技団体関係者等からの意見を聴取して設計に反映させるための意見交換会を開催した。

今後の課題として、開設後は初心者講習会の定期的な開催やHPや区報等を活用したマナー啓発に力を入れて、スケートボードのスポーツとしての認知度向上を図ることが挙げられた。



江東区視察

## 経済産業委員会

視察者9名

実松、江原、中島、江口、稲葉、  
松永幹哉、堤、千綿、中野

7月14日(木)

### 茨城県境町

#### ◎自動運転バスについて

境町では公共交通の脆弱性をカバーし、高齢化の進む交通弱者の救済のために、令和2年11月より自動運転バスの運行を開始している。令和3年8月に第2ルートの運行を開始し、総延長は20kmとなっており、現在第3ルート調整中である。

バスの最高速度は時速20kmであるため渋滞になることもあるが、スピードを出す車が減ったり、路上駐車がなくなったといった面もある。

運行開始から一年半で直接的な経済効果が5.2億円以上出ていることに加え、広告や移動促進による消費拡大等で3.3億円以上のαの効果が出ている。運営コストは、ふるさと納税と補助金を活用し、町の持ち出しが0円となるようにしている。

現在は自動運転レベル2（ハンズオフ）で運行しているが、令和4年度中の法改正により無人で運行できるレベル4が可能となる見込みであり、「誰もが生活の足に困らない町」を目指している。



境町視察

7月15日(金)

### 栃木県日光市

#### ◎観光戦略について

日光市は、今年3月、日光市観光協会、DMO日光と連携し、日光市が世界に通用する観光地として持続可能な成長を図るとともに、ウィズコロナ・アフターコロナ期において観光誘客を進める指針として、観光誘客戦略を策定した。

手順としては、まず日光市の現状（観光マーケットの変容等）を分析し、加えて市の観光資源や交通、メディア露出、オンライン旅行口コミサイトの評価、観光事業者へのヒアリング等の調査を行った。現状分析と調査結果を踏まえて課題を整理した上で課題解決に向けたアクションプランを策定した。

今後4年間の重点的な取り組みとして、日光市観光協会、DMO日光、商工会議所、民間が綿密に連携しながら、情報の一元化・宿泊率や観光消費額の向上・繁閑差の平準化等を図りつつ、競争力を強化する。また、マーケティング力の向上及びサステナブルツーリズムの推進も行うこととしている。



日光市視察

※2 DMO…観光地域づくり法人（地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人）  
※3 サステナブルツーリズム…持続可能な観光（訪問客、環境、地元のニーズ等に対応しつつ、現在及び将来の経済、環境等への影響を考慮する観光）

# 視察報告

建設環境委員会

視察者9名

(永瀨、久米、山田、平原、山口、川原田、野中、嘉村、西岡義広)

7月28日(木)

京都府亀岡市

亀岡市内を流れる保津川では、ペットボトル等の漂着ゴミが問題となっていた。自然や生活環境、観光資源の保護のため20年程前に川下りの船頭が始めた清掃活動が、市民全体のゴミ発生抑制の取り組みへと広がった。

平成24年に内陸の自治体では初の海ごみサミットを開催し、平成30年に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行った。市民活動の広がりや行政のルールづくり、事業者の協力もあり、令和3年プラ製レジ袋提供禁止条例施行、エコバッグ持参率98%以上となっている。亀岡市の取り組みに賛同する企業との連携も数多く進んでおり、次の世代への環境教育や小中義務教育学校へ給水機を設置、ボトルtoボトルに取り組んでいる。また、イベント時のリユース食器利用を促すための補助事業も行う等、市民が誇れる環境先進都市を目指している。



亀岡市視察

7月29日(金)

石川県金沢市

金沢市では平成8年から大規模災害に備えて市内に備蓄倉庫機能を有した防災拠点広場を計画的に整備している。大桑防災拠点広場は東部地区の防災拠点として平成27年度に供用を開始した。外環状道路に隣接し、広場のレイアウトも救済車両を受け入れ易いものとなっている。

大桑かやのした公園と隣接しており、平常時では、周辺住民の憩いの場として自由に利用できる広場となっている。また、防災訓練や防災に関する普及啓発イベント等を行っている。

災害時では、地域住民の避難場所、市内の被災地区への支援拠点となるほか、市外からの緊急支援隊や支援物資の基地としての機能を備える。

施設概要としては耐震性貯水槽、マンホールトイレ、かまどベンチ、かまどスツール、防火樹林等が配置され、芝生広場はヘリポートとしても使用可能となっている。



金沢市視察

## 議会だより いま・むかし②

合併前の諸富町・川副町・東与賀町・久保田町の議会だよりを集めました。



「議会だより もろどみ」平成13年1月25日第89号です。表紙は1月発行に合わせて、諸富町成人式の様子です。



川副町「議会だより」平成5年6月創刊号です。創刊挨拶、3月定例会議案、一般質問など掲載されています。



「議会広報ひがしよか」昭和53年12月15日創刊号です。表紙は昭和53年3月定例会の付議事件と審議結果が掲載されています。



「久保田町議会だより」昭和60年12月15日第1号です。新議会棟の解説のほか、議員紹介、議長挨拶、一般質問、災害視察など掲載されています。